

Ⅲ や っ ち ゃ ば 閑 話

「農業とゲーム、e-sports」

さまざまな企業等が調査しているなりたい職業ランキングでは、農家が上位に食い込むことはなく、農業という仕事に対する子どもたちの関心は低いといえるかもしれません。一方、Youtuber、ゲーム実況者、e-sports（電子ゲーム等による対戦競技）選手等、ゲームをプレイしたり、その様子を動画配信・制作したりといったことを生業とする職業が複数上位に入ることも近年では増えています。

農業とゲーム業界は縁遠いようですが、実は、農業経営を体験できるゲームで e-sports の大会が開催されており、2022 年にヨーロッパで開催された大会では優勝チームには賞金 10 万ユーロ（約 1,500 万円）が贈られる等、規模も決して小さくないです。ルールはシンプルで、3 人チームで牧草地に収穫機を走らせ、収穫した牧草をベラーで圧縮・成型したものを運搬し、制限時間内によりたくさん納屋に運び入れたチームが勝ちというもの。収穫から運搬に至るまでの作業の効率化に向けた作業手順の検討や操作技術の向上、チーム内での連携といったものは正に e-sports といったところではあるのですが、営農に通じるものもあるかもしれません。

このゲームはそういった競技面も面白いですが、本筋の農業経営の体験としてもリアル路線で作られており、2008 年に第一作が販売され、現在ではナンバリングが 25 まで至っています。融資を受けて農地や農業機械を購入するところから始まり、トラクタを運転して畑を耕し、は種、管理、収穫した農作物をフォークリフトでトラックに積み込んでスーパー等に出荷するという一連の作業で生計を立てていきます。安い土地は木を伐採し、抜根して開拓したり、品目によってパイプハウスを建てたりといったことが必要になってきます。また、家畜の肥育や大型農機等を活用した作業受託等も行えます。

さて、そんな作品がつい先日、大手ゲーム実況者によってプレイされ、農業機械の運転の難しさ、終わらない水やり、出荷の喜び等、農業の苦楽を味わいながらも時間を忘れて朝まで遊んでいる様子が約 30 万人に視聴されました。これをきっかけに、より多くの実況者がプレイし、より多くの視聴者の目に届くことで農業という仕事に興味を持ってもらえたら、なりたい職業上位になる日もあるかもしれません。あまりリアルすぎるのも「夢がない」か…？

（オレンジのフラミンゴ）